

[海外研究・教育活動]

米国フレズノ留学記

—カリフォルニア州立大学フレズノ校での経験—

新潟医療福祉大学 理学療法学科 4年生 白井 睦美

私は2007年5月から10ヶ月間、アメリカ合衆国カリフォルニア州フレズノに語学留学をしました。フレズノでは英語を学ぶのはもちろんのこと、その他にもたくさんの異文化に触れることができました。アメリカ独立記念日・ハロウィン・Thanks giving day・クリスマスなどの現地の一大イベントや、セコイヤ国立公園やヨセミテ国立公園、グランドキャニオンなどの壮大な自然を楽しんだことは、一生忘れられない思い出です。また、語学学校にはアジアや中米・南米・中東などからもたくさんの留学生が来ています。初めこそ文化の違いに戸惑ったこともありましたが、留学生同士助け合いながら勉強し、セメスターが終わる頃には国籍や年齢関係なく皆とても仲良くなっていました。今でも彼らは私にとってとても良い友達であり、良い刺激になっています。

また、本学PT学科と姉妹校提携を結んでいるカリフォルニア州立大学フレズノ校PT学科の大学・大学院で、いくつかの授業を見学させていただくこともできました。中でも興味深かったのはバランスクリニックとAnatomy Lab見学です。バランスクリニックでは、大学院生が高齢者や障害をもった子供たちと共に活動します。ここでは簡単なお手伝いをしながら学生や患者様、インストラクターの方々とコミュニケーションをとり、治療を見学しました。Anatomy Labでは、PTの学生自身がメスを握り、献体されたご遺体を解剖し、骨・筋・神経・臓器などを実際に自分の目で見ながら解剖学を学びます。教科書やアトラスと比べ、実際にご遺体の解剖を経験して覚える方が強く印象に残り理解しやすいと感じました。毎週このような機会を得られるアメリカの学生がとても羨ましいと思いました。

私は留学を通し、まだまだここには書き足りないくらいたくさんのことを学び、経験しました。時にはホームシックや辛いこともありましたが、今となっては全ての経験が自分にとってプラスとなっています。大学在学中に10ヶ月の留学という貴重な経験ができ、この留学をするにあたって関わって下さった全ての方々に感謝の気持ちでいっぱいです。



「セコイヤ国立公園の大木、右端から2番目が私」